

喜んでくれたので、もっと歌ってあげたいと思いました」など、それぞれが感じたことを書いてくれていました。介護について知ってほしいと思っていた私たちの思い以上に、子どもたちは色んなことを感じ取り、行動してくれました。

### 【保育所】

▼世代を超えた「ともだち」！  
笑顔と元気をもらいました

「ひ孫世代のかわいらしい子どもたちとの交流で、利用者の皆さんに喜んでもらいたい」という職



子どもたちとのふれあいは元気のもと

員の思いから、ひのっこ保育所と交流会をさせていただき、今年で3年目となります。毎回、子どもたちの笑顔と笑い声が、皆さんにとって元気になる一番の特効薬だと実感しています。

ふれあいゲームで、「かわいいなあ」と子どもたちの頭を何度か撫で、握手を交わす皆さんの表情は穏やかで優しく、見ている職員も心温まるひとときです。別れ際の子どもたちは、いつも「楽しかった。また来年も来てね。忘れん

よ」と手を振り見送ってくれます。帰りの車の中では「長生きしとって良かった」と喜んでくださる笑顔を見るたび、職員も「また頑張ろう！」という気持ちになります。

### 【日翔会の思い】

▼地域とのふれあいを大切に！

私たち日翔会は、このような活動を通して、一人でも多くの子どもたちが高齢者とのふれあいや体験から「優しい心」を育んでいけるようお手伝いしたいと思っています。

### ▼人権作文

# 生きる喜び

日野中学校3年

松本 美季

私たちにとって、命より大切なものなどありません。普通、命は高いお金を出しても買えないし、誰かと交換することもできません。

一人に一つしかない本当に大事なものです。だから、自分の命であれ他人の命であれ絶対に粗末にしてはいけないと思います。自殺する人が年々増えてきているよ

うに思いますが、自ら命を捨てるくらいなら誰かにあげてほしいと思います。生きたくても生きられない人たちに。

私が小学6年生のときに、同級生の一人の男の子が病気で亡くなりました。今でも昨日のこのように思い出します。小学1年生のときからずっと同じ教室にいた彼

と、もう会えないし顔すら見ることができませぬ。

彼は、5年生の冬から入院していました。風邪だと聞いていたのですが、最初はあまり気にしていませんでしたが、1カ月過ぎてても2カ月過ぎてても彼は学校に来ません。私たちは、たまにメッセージュを書いて送るだけ。今どんな状態なの

か担任の先生に聞く勇氣もなく、ただ時間だけがどんどん過ぎていくばかりでした。

6年生になり、一大イベントの修学旅行に行く日が近づいてきました。彼とは何カ月も会っていません。だったので、「会いたいな」「来てくれるかな」「クラスメイト全員で修学旅行に行けるかな」「行け

るといいな」ずっとそんなことを思っていました。

私は同じ班だったので、なおさらその思いが強かったのですが、結局彼は修学旅行に行くことではできませんでした。私たちは、みんなでお土産を買いました。他の班のみんなもたくさんお土産を買っていました。やっぱりみんな彼のことをちゃんと思っているんだなと改めて思いました。

修学旅行も終わり、みんな少し気が抜けていたある日、教室がざわつきました。ドアの方を見ると彼と彼のお母さんが立っていました。私はなんだかすごく焦りました。「何カ月ぶりだろう」なぜかすごく緊張してきて、話したいことができませんでした。

クラスメイトと将棋を始めた彼はとても楽しそうで、私もうれしくなりました。先生から渡していただく予定だったお土産を直接会って渡すことができても本当にうれしかったです。もう病気が治ったのかなと思っただけで、外出許可が出ただけだったようで、彼はすぐ病院に戻っていききました。

「次はいつ会えるのかな」「まあ

退院したら毎日のように学校であるか」彼の顔を少し見ただけで、私はすごく安心していました。もうすぐ治るんだろうと思っていました。そんなことを考えているうちに夏休みに入りました。あつという間に8月になり、もうすぐ夏休みが終わるという8月22日、私は彼が亡くなったと聞きました。彼が亡くなつてから、もう3年が経ちました。毎年命日には彼の家に行っています。行くたびに会いたくなるし、話したくなりま

す。もうそれはできませんが、私たちは絶対に彼のことを忘れることはありません。彼はこれから先もずっと私たちのクラスメイトだから。

命を粗末にしてもいいと思っている人なんていないはずで。でも自殺する人がいるということ

### 編集後記

町内で行われた人権教育の取り組みについて紹介しました。町民人権講座など紹介することのできなかつたものもありますが、多くの方が人権教育に触れ、人権尊重のまちづくりを共に進めている様子がありました。

地域の皆さまには、引き続き、活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

は必ず明るい未来があると信じる前向きな気持ちをもつこと、そのつらさを一緒に背負い共に歩いてくれる仲間や友人を見つけることは、本当に大事なことでと思うのです。一人で強い心を持ち続けるのはキツイけど、すぐそばに支えてくれる仲間がいるのです。それを信じてほしいし、私自身も人を支えられる人間でありたいと思います。

絶対には失わせたくない。彼と一緒に時を過ごした私たちだからこそ言えることです。今ここにいることに喜び、感謝しながら生きていきたいと思えます。

■この作文は、「平成25年度全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会」で奨励賞に選ばれた作品を、校内文化祭の弁論発表として加筆・修正し、改題した作品です。

日野町人権・同和教育推進協議会広報紙

## 人権のまち ひの

2013年12月20日発行

発行：日野町人権・同和教育推進協議会

編集：日野町人権・同和教育推進協議会

広報部会

印刷：高下印刷